
シンポジウム

炭疽菌 Bioterrorism

Bacillus anthracis Bioterrorism

第 574 回新潟医学会

日 時 平成 13 年 11 月 17 日 (土)
会 場 新潟大学医学部 有壬記念館

司 会 山本達男 (細菌学)

演 者 山本達男 (細菌学), 川名林治 (岩手医科大学名誉教授), 五味晴美 (日本医師会総合施策研究所), 岡部信彦 (国立感染症研究所), 堀井淳一 (新潟県健康対策課), 吉川博子 (新潟市民病院)

発言者 重野直也 (医療短期大学 OB), 奥田長三郎 (済生会三条病院皮膚科), 高野操 (付属病院検査部)

司会 これから緊急企画の新潟医学会シンポジウム「炭疽菌バイオテロリズム」を開始したいと思います。先月 10 月に米国で炭疽菌テロが発生し、世界の市民に強い衝撃を与えました (図 1)。今回のシンポジウムは、明日にもわが国で発生するかもしれない炭疽菌テロへの対策として、緊急に企画したものです。企画から開催まで僅か 2 週間しかなかったにもかかわらず、演者の先生方には快くお引き受け頂き、ご多忙の中シンポジウムにお越し頂きました。また、新潟医学会の高橋 姿教授 (幹事) と八田様 (事務局) には格別のご配慮を頂きました。心から御礼を申し上げます。

今回のシンポジウムは基礎、臨床、行政の 3 つのセッションからなっています。基礎の方は細菌学教室の私が発表させていただきます。臨床の方は岩手医科大学名誉教授の川名林治先生に、「私の経験した炭疽」という演題でお話し頂きます。続きまして、日本医師会総合施策研究所の五味晴美先生に「米国の炭疽症最新情報」と題しまして米国の最新情報を報

告して頂きます。行政に移りまして、国立感染症研究所の岡部信彦先生に、「国立感染症研究所からの最新情報」と題しましてお話を頂きます。実は岡部先生はご都合により今回のシンポジウムにはご出席されておりませんが、11 月 12 日に私達がインタビューに赴きまして、そのテープを準備致しました。また、岡部先生には資料をご準備頂きましたので、それを参考にお聴き頂ければと思います。そして、討論の代わりということで私達から先生にいくつか質問をいたしまして、そのお答えを頂きました。Q&A という形で資料に付いていますので、ご参考にして頂ければと思います。次に新潟県健康対策課の堀井淳一先生に、「新潟県での対応」という演題でお話し頂きます。最後は新潟市民病院の吉川博子先生で、「病院での対応」という演題でお話し頂きます。

早速シンポジウムに移りたいと思います。最初は基礎のセッションで、私から報告させていただきます。

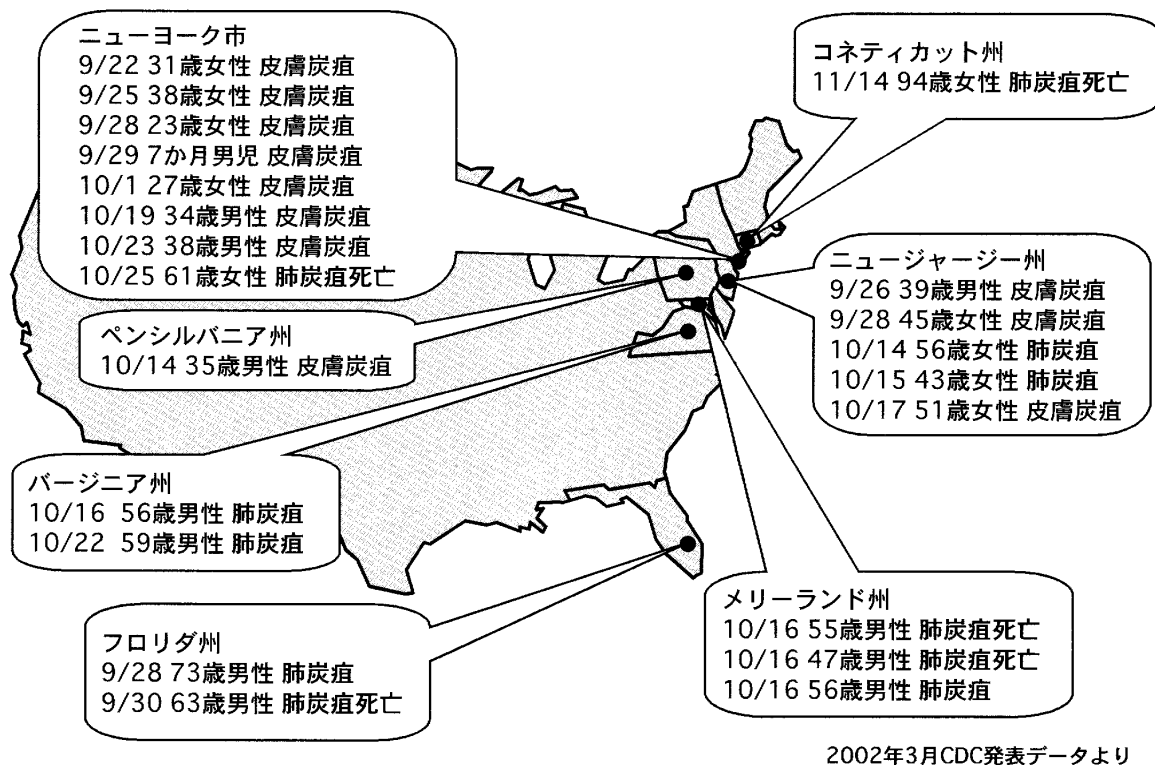


図1 2001年に米国で発生した炭疽菌テロでの患者発生状況

最終的な患者数は22名で、肺炭疽が11名、皮膚炭疽が11名であった。うち、死亡者数は5名(死亡率22.7%)であった。死亡者はすべて肺炭疽患者で、肺炭疽に限れば死亡率は45.5%であった。